



誇りをもつということ

校長 眞瀬 敦子

「風薫る5月」 この言葉がぴったりの、光あふれる素晴らしい季節がやってきました。連休の前半を皆様は如何お過ごしだったでしょうか？

私は遠出をしたときの帰り道の混雑が嫌で、もっぱら空いている都内の美術館や庭園巡りを楽しんでいるのですが、今年は特にツツジ、藤、バラ、菖蒲、ハナミズキなどの花々がまるで北国の春のように一斉に咲き始めて、柔らかい新緑に映える様は、命の歓びを謳歌しているよう！ただ道を歩いているだけでも、心がわくわくと浮き立ちます。

歓びを謳歌しているといえば、昨年後半辺りから谷原っ子たちの物事に取り組む姿勢——例えば挨拶にしても係や委員会の仕事にしても——が前向きで、頑張っている気持ちがとてもよく伝わってくるようになって嬉しいなあと思っていたのですが、先日の校内研究会で、その理由がはっきりしました。

研究は、4年生が「自分達の宝物を紹介する文章を書く」という内容だったのですが、子供達が選んだ自分達の宝物が「谷原小学校」だったのです。

子供達にとって校舎が建て替わるということは一大事です。

壊される旧校舎をきれいに清掃しながら、そこで過ごした楽しい日々を振り返り、心を込めてもう使わない黒板に「有り難う」と、最後の言葉を丁寧に書いていた子供達。それぞれの力に合わせて引っ越しの荷物を運んだ高学年の子供達。新校舎から、壊される旧校舎を見て涙した子供達は、工事中怪我や事故が無いよう、できるかぎりのびのびと過ごして欲しいと心を砕いていた先生方の姿も、ちゃんと見ていました。

そんな体験をしたからこそ、今の校舎をただ「綺麗」と感じるだけではなく、実感として自分達の宝物と捉え、その中で勉強し生活することに歓びと誇りを感じ、それが子供達の日々の姿勢にまで表れていたのです。

「谷原小学校を建てる仕事をしていることを、スカイツリーを立てるよりずっと誇りに思っています」と、インタビューに答えてくれた所長さんの言葉を、4年生もしっかり受け止めていました。

先日私も初めて、校長室の真ん前に建っているプレハブの建築事務所におじゃまする機会があったのですが、その壁には、谷原っ子がお礼を書いた旧校舎の黒板、国語「働く車」でクレーン車を見つめる低学年の子供達、インタビューの授業で、子供達に答えている現場の各部門の責任者達の様子など、様々な子供達との関わりの写真が壁一杯に張ってありました。（もちろん私の許可を得て写したものです）

「『この子供達のために働いているのだ』という気持ちをいつも持ち続けるためです」と説明してくれた若き安全管理者は、「トイレのタイルも、子供達の背の高さまでは、危なくないように面取りをしたんですよ」と、控えめながらも誇らしげに話してくれました。

柱の角が面取りしてあったり、カバーが取り付けられていたりしているのは知っていましたが、図面にもない、そんな細かいところまで心配りをして建てているとは知りませんでした。

5年生の国語の教科書に載っている「千年の釘」や「わらぐつの中の神様」のように、自分の仕事に誇りをもって働いている人達、その人達が建てた校舎の中で、子供達も谷原っ子としての誇りを育てています。そんな谷原小に勤務していることを、私達教職員も誇りに思います。

連休が終わればいよいよ運動会です。近隣の皆様には、またご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、競技に、係の仕事に、子供達はどんな姿を見せてくれるのでしょうか。